

2023 第 63 号  
千葉支部だより



J・A・C



令和 5 年 10 月発行

発行元（公社）日本山岳会千葉支部  
〒285-0837

佐倉市王子台 6-38-4 松田方

発行者 松田 宏也

編集者 小川 和敏

E-Mail cib@jac.or.jp

（表紙の絵）

月山から鳥海山を望む

水彩画 小菅 一弘

「さあ、どんどん、外に出て支部交流を楽しもう！」

支部長 松田宏也

ようやく人の動きが活発になってきた。横目で周囲の反応を伺いながらも、赤信号みんなで渡れば怖くないとばかりに人の往来が始まった。忘れかけていた自由が普通にあることが素直にうれしい。自由を奪われたストレスに耐え忍んだ甲斐があったというものだ。

私自身も7月は青森・八戸で開催された北海道・東北支部集会、8月は九重で行われた九州5支部集会、ついでに大分県佐伯市への久しぶりの里帰りでは台風接近により一日早めての帰宅。その後は群馬支部のビアパーティで水上へ、続いて千葉支部の山の日ビアパーティとなかなかのハードスケジュールであったが、思うに日本山岳会のネットワークの広さを改めて再認識できた2ヶ月間でもあった。顔を合わせ、酌み交わし、山談義をすれば、あっという間に旧知の山仲間となるから不思議なものだ。個性豊かな山仲間のところに出かけ、初対面でも親しく交流を図ることができるというのは、長い歴史のなかで日本山岳会が創りだした、類い希なる豊かな組織財産でもあるのだろう。

人生に潤いを与えてくれるクラブライフをどう楽しむかは個人の行動次第。人の往来の活発化に相乗りして、支部、他団体との交流を深めてゆくことは新た

な潤いと活力を与えてくれるに違いない。先般、千葉県山岳・スポーツライミング協会に加盟したが、これも同様に外の世界との交流を通じて、山を愛する同志を増やしつながらの重要性をひしひしと感じているからに他ならない。

異常な暑さの夏が終わり、過ごしやすい季節の到来。強烈な日射しから温もりの日射しに変われば、山は色づいてくる。今年ほど秋の訪れが待ち遠しいことはない。気持ちよい汗を喜びながら、紅葉の季節をのんびりとたっぷりと楽しみたい。その時に多くの支部の仲間と一緒に語りあう機会がもてれば、最高の山行となるだろう。

さあ、どんどん、外に出て新たな仲間との交流を楽しもう！

ところで、千葉支部会員の藤井正善さんがGHT(グレートヒマラヤトラス)の第4ステージに参加します(期間は10/7~11/25)ガネッシュ山群~マナスル山群~アンナプルナ山群の踏査予定です。藤井さんは昨年秋のGHT第2ステージに続いての参加になります。120周年記念事業のGHTに皆さんの絶大なる支援をよろしくお願いたします。

**2023年4月からは全ての会友の期間は2年間とする。(現在入会している会友は2025年3月まで)会友の期間終了後は会員もしくは準会員を選択してもらおう。なお、70歳以上の会友は特別会友として対象外とする。また、70歳以下でも山岳活動の講習等ができる方も対象外とする。**

(年齢は2025年3月末時点とする)

[ 目次 ]

|  |         |
|--|---------|
| ・自然学クラブ巡検—御岳山ロックガーデン   | p 2     |
| ・山行記録<br>只見四名山・要害山と浅草岳、大崩山・徒渉できずに・・・                         | p 3     |
| ・初級登山教室を開催しました 受講生の感想  | p 4     |
| ・第3回初級登山教室 小栗山 大介   ・第4回初級登山教室 羽藤 美代子                        | p 5     |
| ・山行記録<br>大多摩トレッキングトレイル、卯年御縁年の月山                              | p 6     |
| ・晴香園との交流事業が復活 鶴原理想郷、奥多摩ロックガーデン 三木 雄三・香高 真奈美                  | p 7     |
| ・山行記録<br>信仰の富士山昔道、スッカン沢と桜沢、遙かなる山・ペテガリ岳、                      | p 8~9   |
| ・こんにちは 國宗 文  | p 9     |
| ・あの日の山 黒部別山南尾根～劔岳～馬場島へ、冬季の縦走<br>一忘れ得ぬ岳人・廣島三朗さん、冬の劔岳山頂— 前田 栄三 | p 10    |
| ・山の日・ビールパーティ 三田 博  | p 11    |
| ・山行記録<br>初めての山小屋と高峰高原の山、待望のアオウミガメの孵化                         | p 11~12 |
| ・ウォーキングクラブ計画実施を振り返って 宇津木 仁典                                  | p 12    |
| ・山行記録<br>最難関の北鎌尾根を登る   | p 13    |
| ・支部山行の予定   | p 13~16 |
| ・事務局からのお知らせ  | p 16    |

自然学クラブ巡検

三木 雄三

第20回巡検 御岳山ロックガーデンの謎

2023年6月17日(土) 晴れ

参加者: 岩尾富士夫、梶田義弘、黒住清美、塩塚正二、  
竹内進、中場義則、平出正美、吉田望、  
吉永英明、三木雄三(L)。

今回の巡検テーマは「山の上に来た溪谷の謎を探る」だ。溪谷とは一般的に山の下を流れるイメージだが、御岳山では山の山頂付近に「ロックガーデン」と呼ばれる溪谷がある。2万5千回『武蔵御岳』を広げると中央部に多摩川が流れ、右岸には「鍾乳洞」や「せっかい」「セメント工場」の表記がたくさんある。

自然学の巡検も20回を重ねると、石灰、鍾乳洞があれば、「大昔はサンゴ礁の広がる海だったということが容易に分かります」と巡検皆勤賞の塩塚さん。

御岳山一帯はジュラ紀の深い海に堆積した砂岩、泥岩、石灰岩、チャートなどを含んだ「仏像構造線」と呼ばれる断層が銚子沖から多摩川に沿って北西から南東方向へと帯状に延びている。

まずは「七代(ななよ)の滝」に向かう。御岳神社を



過ぎて大岳山に向かうクサリ場通りの天狗の腰掛杉が分岐で、ここから下り道。やがて大きな岩の天狗岩に着くと木の根、ロープ、鉄ばしごを使って降りる。転落死亡事故も起きているから皆慎重だ。鉄ばしごは5段に分かれて設置されており、岩の塊ごとに設けられたものだ。

下り切ると水しぶきをあげる七代の滝。天狗岩から七代の滝あたりの巨岩は「チャート」だと分かる。チャートは放散虫などプランクトンの死骸が海底に堆積し固まったもので、1センチの層をつくるのに約1千年の時間もかかる硬い岩。御岳山神社の奥の院、大岳山などのピークは硬いチャートで出来ている。

巨岩が連なり、苔むした沢沿いのロックガーデンは、山の山頂部付近に浸食に強い岩があり、雨や洪水など水の浸食に抵抗して出来あがったもので、今回も自然の驚異を見せられた。



50歳未満は、千葉支部への入会金と年会費2年間分を免除します！

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「お試し山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、50歳未満の新入会員は入会金1,000円と2年間の年会費(正会員1,500円または会友3,000円)を免除します。

只見四名山・要害山と浅草岳

三田 芳江

山行日/天候：6月23日(曇り)24日(曇り雨のち晴れ)  
参加者：L 三田博、小川和敏、三品京子、宮崎美智代、  
三田芳江、(5名)

タイム：1日目 宮野沢登山口 12:20→要害山 13:05→  
南尾根登山口 13:50  
2日目 只見沢登山口 6:40→剣ヶ峰 8:35→  
浅草岳山頂 10:30→只見沢登山口 14:00



雨を心配しながら5時半に市原を出発。渋滞もなく11時には登山口近くの只見駅前駐車場へ到着。晴れて陽射しが暑い。昼食場所を探して周辺を散策。やっ

と見つかった美好食堂で美味しいラーメンで腹ごしらえ。みんな軽い足慣らしのつもりで滝神社のある登山口へ向かう。ところが始めからなかなかの急登が続き、尾根に出ると「一服尾根」の標柱。ホッと一息ついて遠くを眺めると昨年登った「会津のmatterホルン」蒲生岳が見えた。20分ほど登ると「ブナ太郎」と名付けられた立派なブナに出会えた。程なくテレビ塔のある要害山山頂へ(705m)。只見の町並みを一望し、先週の地図読み講習会の復習で下山の方向を確認して出発。キタゴヨウの松林の中、急斜面を下り南尾根登山口へ。戦国時代の山城、水久保城跡の要害山 難攻不落の名城は低山ながら手強い山だった。「季の郷湯ら里」で温泉を楽しんだ後は「森林の分校ふざわ」で只見名物味付けマトンのBBQで翌日の浅草岳登山の英気を養った。

朝食を弁当にしてもらい、早朝に宿を出発。昨晚の雨は上がっていたが登山道の足元が心配された。田子倉休憩所で朝食を取り身支度を整えて只見沢登山口へ。泥濘や



滑りやすい木道に注意しながら鬱蒼とした森を進む。幽ノ倉沢の仮橋を過ぎると気持ちのいいブナの森の中へ。水場のある大久保沢から九十九折の急登を登りきると田子倉湖が見下ろせる「田子倉眺め」の稜線へ出た。1131mの剣ヶ峰まで行くと西側に雪渓の残る鬼ヶ面山が見えたが、山頂は雲に隠れていた。ここから足場の悪い急斜面が続き、雨も降り出した。励ましてくれるかのように足元には白い花のアカモノやゴゼンタチバナが、頭上にはピンクのウラジロヨウラクやヤマウツギ、オレンジのヤマツツジが咲いていた。山頂近くになってようやくお目当てのヒメサユリが可憐な姿を見せてくれた。登り始めて約4時間、やっと山頂(1585m)に着いた。狭い山頂はガスって視界がなく、そそくさと写真を撮って風の来ない所まで下り、立ち休憩後に下山開始。剣ヶ峰まで戻るときには雨が上がり、振り返ると青空が広がり山頂が見えた。行きに見えなかった鬼面山の姿も見えた。カップを脱ぎ身軽になって、急斜面の滑りやすい足元に苦戦しながら登山口へ戻った。



※只見四名山は、あと朝日岳と蒲生岳です。

大崩山・徒渉できずに・・・

小川 和敏

山行日/天候：7月2日(晴れ)  
参加者：L 小川和敏、三品京子、三田芳江、宮崎美智代  
(4名)



前日の大雨も夜までに上がり、延岡から細い道を進んで登山口へ。登山口に続く祝



子川の流れの音が大きく、ちょっと不安。現在、登山口への道路が崩壊して通行止めとなっている。2km手前の臨時駐車場に着くもほかに1台もクルマがない。更に、不吉な予感！登山口まで歩くも沢筋の水量がかなりある。登山口に到着して、とにかく山荘まで行くことに決める。山荘に着いて皆で思案し、帰りの徒渉地点が近いので様子見に。・・・うん？・・・駄目みたい！でも諦めきれずに上流の徒渉地点へと。こちらも・・・う

※個人山行

うん？・・・駄目だ！天気は暑いぐらいの好天なので、皆で後ろ髪を引っぱい引かれながら駐車場へ戻る。

急遽、昨日たまたま見かけた鋭峰「丹助岳」へ向かうことにする。周辺はハイキングがメインのようで、広場から登山口を探すのに一苦労。コースタイム1時間強とたかをくくっていたら、150mほどの急登が待ち構えていてビックリ。多くのロープ場をクリアしつつ、大汗をかいて頂上へ。さすがに展望も良く、達成感8割ほどでまあまあ満足感でした。翌日は、熊本方面に寄



ってからと思っていたところ、途中見かけた五ヶ瀬川の荒れ狂う様子に引き返すことに。臼杵大仏と杵築の街並みを見ただけで大分空港へ這う這うの体でたどり着き、何とか羽田空港へ戻ることが出来ました。もしかしたら、危機一髪だったかも？！

## ● 初級登山教室を開催しました ●

千葉支部では令和5年度に会員・会友向けに初級登山教室を開催しました。

※ 中間の日程で、③地図読み④山の天気と機上講習と実技をセットで実施しました。テキストには、JMCSA（日本山岳・スポーツクライミング協会）の「夏山リーダー」テキストを使用。机上講習の場所は、津田沼のヨシキスポーツYYルーム。14:00～16:00でした。

### 【登山教室カリキュラムと日程】

終盤は下記の日程です。 ※本支部だより発刊時には終了

9月2日（土）机上⑤山の病気と救急法 / 9月3日（日）実技⑤大菩薩嶺

9月30日（土）～10月1日（日）実技のみ⑥ 山で泊まる、食糧計画（場所未定・山小屋泊）

## 【受講生の感想】 — 山の天気・7月22日机上及び23日の川苔山山行 —

### ● 机上講習：7月22日

参加者：羽藤美代子、成田知彦

～なんとなく、からなるほど～

これから登山を始めるにあたり、天候は当日の気分を左右するとても重要な条件の一つ。これを事前に予想出来ればより楽しく、より安全に活動する事が出来ると感じて参加。まずは、参加者同士で自己紹介、プログラムは次の2部構成。

第一部：山の天気入門 松田宏也 ・天気は西から！！

第二部：実際の山の天気と気象情報 山本哲夫 ・山の気象 7つの事例を例題に画像、動画、天気図と当時の天候を比較それぞれ特徴のある講習を聞かせて頂く。

これまで山に登る計画を立てる際、参考にしたのは、天気予報のみ。最近ネットも発達しリアルタイムで当日の予想出来、例えば天気が悪いとしてもそれなりの準備ができると思っていた。講習を聞いて意識していなかった事が理論で理解する事が出来た。

・天気予報は、現地の天候だけでなく隣の地域も確認する事が重要（主に西方面）

・山は雲がどこで発生するのか意識する事が重要（主に西側）

・雨っぽいにおいを感じる事（これは慣れでしょうか）

・天気が崩れるのは雲が出来るから → 雲は水蒸気が上昇して出来る。地表が暖められると上昇気流や風が発生し上空で空気が冷やされると雨が降りやすくなる

・気圧を意識 天気図を見る時は等圧線、高気圧、低気圧を意識

・山の天気は本当に変わりやすい。晴れたと思っても突然強風が吹き視界を遮る。

今まで感覚でなんとなく・・・感じた事が「なるほど」腹オチ出来たし、個人的に高気圧→天気良し、低気圧→天気荒れる位で見ていたので目からうろこでした。いくつかのポイントを理解するだけでより良い行動が出来る事が勉強になり、パワポの画像を見て天気の怖さもありましたが、どちらかというも行ってみたい気持ちが大きかったです(笑)講師の皆様有難うございました。(成田知彦)

### ● 実技：7月23日 川苔山

参加者：羽藤美代子、斉藤和紀

私にとっては3度目の本格的な登山となった。今回の登山は以前の苦しい、辛いだけの景色を見る余裕さえなかった登山とは少し違った、多少余裕を持って景色を楽しみながらの登山が出来たと思う。百壽の滝までの登山道は沢沿いのコースで沢の岩は多くの苔で覆われており川苔山の語源はこのことから来ているのかと勘違いをしてしまう様な光景であった。本当の語源は昔この川で川苔が採れたことに由来する。今までの登山は暑さと汗で苦しめられたが百壽の滝までの道のりは涼しさを感じられる程快適であった。百壽の滝は水量も多く、30m近く落下する水をこんなにも近くで下から見るのは人生初の体験でした。今回の山行を通して登山の魅力が少し分かった気がします。しかし全行程7時間の今回登山は私にとっては大分キツイ登山になった。鳩ノ巣駅までの長い下り、懸念していた膝の痛みが出て何とかトレッキングポールで凌いで鳩ノ巣駅に到着、達成感を味わいました。

今回の登山でまた一つ新しい登山の魅力を発見できたことで、益々新規の山への挑戦心が芽生えた気がします。

サポートして下さった講師の皆様へ感謝申し上げます。(斉藤和紀)



山頂からの奥多摩湖方向積雲

第3回初級登山教室

小栗山 大介

実技：地図読み—高水三山

山行日/天気：6月18日(晴れ)

参加者：三品京子、三田芳江、宮崎美智代、斉藤和紀、加藤剛、小栗山大介  
/スタッフ：山口文嗣、三田博、小川和敏 (9名)



第三回登山研修に参加。読図と地図アプリを学習する。梅雨間の快晴のもと、本日は軍畑駅から高水山、岩茸石山、惣岳山を経て御嶽駅へ下る計画である。

最初にコンパスの使い方を学び、チェックポイント毎にコンパスの方向を設定して進んだ。地形図から沢や尾根を把握し、等高線を見て標高差を割り出して歩行時間を予想する。登山アプリはジオグラフィカを使用した。普段登山アプリに頼り切りの私は慣れないコンパスと地形図による読図に苦労した。慣れるまでチェックポイントでコンパス設定を行い、12:20に高水山山頂に至る。登り下りを繰り返して岩茸石山に13時到着。北側に広がる絶景を見ながら休憩した。休憩後は惣岳山へ向かう。途中展望が開けた所で山座同定について教えて



り下りを繰り返して岩茸石山に13時到着。北側に広がる絶景を見ながら休憩した。休憩後は惣岳山へ向かう。途中展望が開けた所で山座同定について教えて



頂いた。急坂を登り切り14時に惣岳山へ着いた。

登山をするにあたり確かな知識と技術を習得したいと考え参加した登山教室だが、毎回充実した研修をさせて頂いている。今回の学びを忘れぬうちに、しっかりと復習、反復して自分の力にしていきたい。



第4回初級登山教室

羽藤 美代子

実技：山の天気—川苔山

山行日/天気：7月23日(晴れ)

参加者：斉藤和紀、羽藤美代子  
/スタッフ：三田博、山本哲夫 (4名)

タイム：川苔橋 9:56→細倉橋 10:53→川苔山 14:00 着  
14:30 発→大根山の神 16:30→鳩ノ巣駅 17:33

今日は実技山行で川苔山へ。

奥多摩駅に着くと青空に雲もあり蒸し暑さもあつた。奥多摩の今日の天気予報は高気圧に覆われた夏空で厳しい暑さとなるとの予報。川乗橋バス停からしばらく林道歩き、細倉橋から登山道に入ると、渓谷沿いから吹き上げてくる冷たい風が、汗が滴り落ちる顔を一瞬冷やしてくれて心地良い。

ようやく百尋の滝に着くと、水着姿で滝の下で、楽しそうに遊んでいる4.5人の若い女性がいた。ここまで遊ぶ為に来たのかしらと、なにか違和感を感じた。そんな光景を

かき消すように、滝の傍の岩に、紅紫色のイワタバコの花がとても綺麗に咲いていた。さてさてこれから頂上迄あと2時間、登りも段々ときつくなってきて、汗だくの私は水分だけはしっかり取った。頂上に着いたのはもう2時だった。天気は西から変わると教えられた。う〜ん西はどっち？頂上からの



奥多摩湖方面の景色は雲が山々を覆っていて望めなかった。

昼食を済ませ早々に下山開始、間もなく両脚の筋肉が同時につった。落ち着いたと思ったら、又つる。3・4回繰り返す。水分は足りていたと思うが塩分不足だったかもしれない。山本さんにザック持って頂き、皆さんの足を止めたり、迷惑をかけてしまいました。鳩ノ巣駅に着いたのは5時半を廻っていた。

「山の天気」以前の日頃のトレーニングの大切さを思い知らされた山行となりました。

大多摩ウォーキングトレイル

三田 博

山行日/天候：7月9日（日）曇り  
参加者：L 三田博、山口文嗣、斉藤和紀、平出正美（4名）

ことし3回目のガイドンス山行。4人での山行とやや寂しかったが、うれしいことに会友の斉藤さんが JAC の入会申込書を持って参加してくれた。青梅線古里（こり）駅に集合、ネットでダウンロードしてきた奥多摩観光協会の親切な絵地図を手には歩き出す。初めは青梅街道を歩き、道標に従い路地に入り多摩川を渡って右岸の遊歩道を歩く。要所ごとに番号の入った道標が20数か所、ところどころに綺麗なトイレもあり歩きやすい。それなりに山道のアップダウンもあり、滝や溪谷を楽しみながら気分よく歩けるトレイルだった。古里駅から奥多摩まで8.2km、ゆっくり歩いて3

時間半ぐらい。  
ゴールの奥多摩駅前では、斉藤さんの入会をお祝いして餃子と生ビールで乾杯！奥多摩の自然を手軽に楽しめる思った以上に良いコースでした。



ガイドンス山行のご案内

入会間もない人や入会を検討している人のために、日本山岳会や千葉支部の事をよく知ってもらおうという趣旨で「ガイドンス山行」を始めています。第3回目は上記の大多摩ウォーキングトレイルで行いました。今後も、3ヶ月ごとにガイドンス山行を開催する予定です。10月には景信山での開催を考えています。既に入会している方も歓迎です。是非、奮って参加いただければと思います。

卯年御縁年の月山

三田 博

※個人山行

山行日(天候)：7月16日～17日(曇り)  
参加者：L 三田博、三田芳江、三品京子、宮崎美智代  
コース：月山8合目→仏生池小屋→月山頂上→  
月山神社→仏生池小屋→月山8合目

うさぎ年の今年、月山は「卯年御縁年」ということで御参りすると12年分の御利益が得られるとの事です。当初は鳥海山と月山に行くつもりでしたが、東北方面は大雨予報で秋田では大水害が起きていましたので、山形・鶴岡の月山だけになりました。

初日は羽黒山にある出羽三山神社に御参りして、近くの宿坊に宿泊。翌日に羽黒山口の月山8合目から頂



上を目指します。  
駐車場はガスでも見えず、登り始めたら猛烈な風でした。吹き飛ばされそうになりながらも、咲き誇る花々に励まされ、何とかコースタイムの3時間で三角点のある山頂へ到着。その後、頂上神社で御祓いしてもらいました。天候はあまり良くないのに「卯年御縁年」ということで登山者は意外に多かったです。我々は果たして12年分の御利益にあやかれますでしょうか？



行きたい山の声を集めます！

ここ数年、支部山行の参加者が固定されている傾向が有ります。出来るだけ幅広い参加者をとの思いから、難度Aの山行を計画するとか、平日の山行を計画するとかいろいろ試行錯誤していますが、なかなかフレッシュな参加者が増えません。「こういった山行をしてほしい」「この山にいつか行ってみたい」とか・・・何でも良いので、千葉支部の事務局までメール連絡を頂ければと思います。可能な範囲でご希望に沿う計画を立案します。  
送信先； cib@jac.or.jp



## ● 晴香園との交流事業が復活 ●

コロナ禍の影響で2020年1月の弘法山ハイキングを最後に中断していた児童養護施設「晴香園マウンテンクラブ」との交流事業が3年ぶりに復活しました。

送られてきた「晴香園だより8月号」を開き、嬉しくなった。ページの中ほどに後援会活動の紹介欄があり、白波が押し寄せる海岸で、飛び跳ね遊ぶ子どもたちの写真が1枚、掲載されていた。6月24日に「地層見学」を兼ねて鵜原理想郷で再開1回目のハイキング。帰りに寄った海でのワンショット。「見るのも、入るのも初めてです」と話した引率の先生の言葉が今も耳の奥に残っている。

さまざまな家庭環境から保護者と別れ別れに暮らしている子どもたち。山歩きを通じて将来の生き方に役立てられればと2013年5月、養護施設と千葉支部との交流が始まった。高尾山を手始めに中央線沿線、丹沢、奥日光、富士山…。時代が平成から令和になって清澄山の県民の森で初めて泊りのキャンプも実施した。しかしコロナ禍となり20年1月の弘法山で中断。ようやく再開にこぎつけた。子どもは純粹。「本気で接すれば、本気で答えが返ってくる」。今では孫と同じ年齢ほどの子どもたちに元気をもらっている。(三木雄三)

### 鵜原理想郷ハイキングコース 三木 雄三

6月24日(土) 晴れ  
晴香園マウンテンクラブ児童5人  
参加者：今井貴朗、鈴木操、高橋琢子、中田彩、三木雄三

再開1回目が勝浦市の「鵜原理想郷ハイキングコース」であり、5人の子どもたちが楽しんだ。

6年女児「ここな」を隊長に5年男児「ひかる」が副隊長、4年女児「みわ」「ゆずく」、男児「こうき」が参加した。朝6時に朝食してきたとあって、鵜原駅に到着した10時には「ねえ、ミッキー、どこでご飯にするの」…。それでも海が見えてくると俄然元気いっぱい。

入り込んだリアス海岸は三浦層と呼ばれ、三浦半島と続いている鉄を含んだ古い地層の縞模様が見える場所があり、磁石で砂鉄を集め、ビニール袋にいれると「学校の友達に見せる」と話していた。

コースは登ったり、下ったり。太平洋の大海原が見える丘でお待ちかねの昼食タイム。空にはトンビが旋回し、「見て一、鳥がいるよ」。

海岸が近くなると、中田さんが「海に入りませんか」と提案。これには子供たちが大喜び。「膝まで」の約束だったものの、ざぶーんと押し寄せる波に全身びっしょり。10分、20分、30分と時間を忘れて楽しんだ。「たぶん、海を見たのも、海に入って遊んだのも初めてです」の引率の先生の言葉が耳に残った。



### 奥多摩ロックガーデン 香高 真奈美

8月22日(火) 晴れ時々雨  
晴香園マウンテンクラブ児童6人、職員2人、実習生2人  
参加者：高橋琢子、山口文嗣、今井貴朗、斉藤和紀、三木雄三、香高真奈美

晴れ間に時々ミストのような雨の天気。御岳山ケーブルカー10:20発に乗り込む。

自己紹介して子供たちの中で隊長と副隊長を決めて出発した。北小金から来ておなかもすいている児童たちだがとにかくロックガーデンを目指すことにした。ミッキーさんが、天狗の腰掛け杉や、褶曲した大岩～天狗岩の説明をしてくれた。



ロックガーデンに着き待望の

お弁当タイム。そしてすぐ水遊び。

帰りには土産屋で記念の「山バッジ」を買いご機嫌でした。ケーブルカー駅の広場

からは、雲も切れて遠く筑波山まで見渡せる！子供たちは元気いっぱい、解散式をして秋の再会を約束してお別れした。

今回は、施設長と保育実習生、そして支部からも多く参加していただき、心強く賑やかな山行になりました。



信仰の富士山昔道

竹園 清孝

山行日/天候：7月22日 土曜日(曇り)  
 参加者：CL 三品京子、SL 小川和敏、香高真由美、森川雅子、黒住清美、松本さゆり、國宗文、竹園清孝(8名)  
 タイム：富士山駅9:30→馬返10:10→一合目(鈴原神社)10:23→二合目10:50→三合目(三軒茶屋跡)11:20→四合目(大黒天跡にて昼食)12:10→四合五勺(御座石)12:20→五合目(佐藤小屋)13:00→13:40 富士スバルライン 5合目にて解散



関東が梅雨明けとなったが、まだ曇り空の中、前年のリベンジとなる富士山昔道を歩いた。富士山駅でバスを待つとマイクロバスが到着。乗り切れず追加のタクシー3台に分乗「馬返」へ向かう。

吉田口登山道はかつて富士講(富士山信仰)の人たちによって繁栄し、以降1964年富士スバルライン五合目が開通するまで、最も富士登山に便利な登山道として栄えた。今日はその足跡をたどることとなる。

「馬返」から出発するといきなり手を合わせた猿(普通は犬や狐)の石像を通り抜け、信仰の聖域なのか「禊所(みそぎどころ)」があり、何人か?は胸に手を当て通り過ぎたようだ。登山道は緩やかに続くが二合目まで来るとひと汗かき、リー



ダーからの冷たい冷たいゼリーがのどにしみる。今となっては行きかう登山者も少ないようだが、「昔道」両端には白や黄色の小さな花と出会う。朝ドラの「万太郎」のようにのぞき込む。また掌に乗るような「ひめねずみ」がするすると小走りを出迎えてくれる。富士山といえどまだまだ樹林帯だ。

三合目「三軒茶屋」跡から展望が開け下界を見ることができる。道はやや急となるが四合目「大黒小屋」跡でかつて小屋があっただろう礎石にシートを敷き軽い昼食をとる。四合五勺の「日本橋」と彫られた「御座石」をすぎると見事な花卉をどっしりと抱えたシャクナゲが咲いていた。はじめは一輪であったが足を進め五合目「佐藤小屋」に近づくとその花の数はまさに群生となり「ワー!きれい」と皆がカメラマンになった。その白く輝く無数のシャクナゲはまるでジブリ映画の「森の妖精」さながらであった。

五合目「佐藤小屋」からは車が通れる平坦な道、森林限界も過ぎ天空が開ける。本来なら行く手左側にはあの富士山が見えるはずだが、下から吹き上げてくるガスでその容姿は確認できない。

ほぼ当初のコースタイム通り所要3時間30分で富士スバルライン五合目に到着したが、そこはまるで異国にいるような音声が飛び交い、富士山はもう日本だけの山ではなくなっていた。

かつて多くの人々がこの「富士山昔道」を行き交ったことだろう、富士山の奥の更に奥の大きなものをもとめて・・・



スッカン沢と桜沢

三田 博

山行日/天候：7月29日 土曜日(曇り)  
 参加者：L 三田博、小川和敏、三品京子、三田芳江、平野直子(5名)

猛暑真っ盛り、涼しい場所へと栃木のスッカン沢・桜沢へ行く。「山の駅たかはら」に駐車して遊歩道を下る。まだ8時前なのに、歩いていると暑くて汗びっしょり。

最初は青い水のスッカン沢を遡行して「雄飛の滝」見物。水量が多くて迫力がある。柱状節理のハング下を通った時に、突然、石が頭の上にバラバラ落ちてきてびっくり。ヘルメットをかぶっていたので無事だったが、こんなことは初めて。



遊歩道に戻り、次は桜沢へ。入渓点は二条に流れ落ちる「咆哮霹靂(ほうこうへきれき)の滝」。念のためロープを出して右側の「咆哮の滝」を登る。滝の上は素晴らしい幅広のナメ滝。その後は登れる小滝が続きます。次の大物は「雷霆(らいてい)の滝」。2段目の水流の間のリッジを登り、ここもロープを出す。その後は巨岩のゴアロが続く、左岸にいったん上がる。やがてゴールの「おしらじの滝」。水は落ちてないが、釜の水は透明のブルー。あんまり暑いので飛び込みたくなるが、過去に心臓マヒで死んだ人もいたので足だけ浸すことにする。ここから車道に上がり、林の中をキノコを探しながら駐車場へ戻る。





遙かなる山・ペテガリ岳

三品 京子

※個人山行

山行日(天候) : 8月5日(雨) 6日(曇り雨) 7日(曇)  
 参加者 : CL小川和敏、SL三田博、三田芳江、  
 宮崎美智代、三品京子(5名)  
 タイム : 5日(土) 駐車場10:40→ペテガリ山荘16:20  
 6日(日) ペテガリ山荘3:00→展望台8:00→  
 ペテガリ岳山頂10:10→展望台12:00  
 →ペテガリ山荘16:15  
 7日(月) ペテガリ山荘3:50→駐車場8:00

5日 新冠町の宿で朝食を済ませ、今日は曇り明日も快晴の予報に気を良くし出発。林道を1時間走り駐車場に到着。準備をしていると予報は外れ雨が降り始める。諦めて雨具をきて3日分の食料が入った重いザックを背負いペテガリ山荘を目指し歩き出す。最初の難関の徒渉はラッキーな事に工事車両の為に鉄板橋が架けられておりクリア。沢沿いを登り、泥濘に足を取られながらも乗越しに着いた。下りもまた泥濘の坂をロープを頼りに降り、林道手前の川原で遅い昼休憩をとる。ここから先は林道を4kmひたすら歩きペテガリ山荘に到着。まだ登山口にしかたどり着いていないというのにハードな初日となった。

6日 2時に起床し3時に出発。ヘッドライトの灯りを頼りに沢筋から登山道を登る。ガスで全く景色が無い中、ひたすら登っては下りを何度も繰り返すが、標高は一向に上



がらず、5時間が過ぎたころ展望台に着いた。名前が展望台と言うからには景色があると期待していたが、生憎と展望はゼロ。そして、ここから最後の急登の500mが待ち構えている。ここまでも藪漕ぎをしてきたが、この先は背丈ほどの笹と這松に悪戦苦闘。トップを交代しながら2時間ほどでようやく山頂にたどり着いた。しかし残念なことに強風とガスで立っているのがやっと。登頂の写真を撮って、滞在時間2分で早々に撤退した。下山は登り返しに苦労しながら、やっと小屋近くまで降りてくると登山道に熊の足跡を発見。笛に鈴を鳴らしながら何とか無事に小屋にたどり着いた。早々に湧き水で冷やしたビールで乾杯。あーうまい！疲れた体にしみわたった。



7日 昨日の疲れから全員が寝坊。朝食は途中で済ませることにし大急ぎで小屋を後にして林道を歩き出す。乗越しから沢沿いを滑らないように下り駐車場へ無事に着いた。ペテガリ岳は本当に奥深くたどり着くには体力・気力が必要だと実感。凄い山だった。そして、3日間一番悩ませたのがダニとブヨの攻撃。虫よけスプレーは役に立たず常に手で払い続けるしかなかった。

♪ こんにちは ♪



今年度、会友から会員になりました、**國宗文(クニムネアヤ)**です。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

山梨県の甲府盆地の西の端っこ、釜無川(富士川上流)の近くで生まれ育ちましたので、初めての登山体験は小学5年の林間学校での楡形山です。事前に山での雷は地面を這うと脅され、ひたすら暑くて喉が渴いたのと山頂付近の登山道がツルツルで滑りそうで怖かったことが思い出です。

田舎育ちなので歩くことは好きでしたが、意識して山歩きたいな、と思ったのは家族旅行でスイスに行ってからです。あの時、津田沼のヨシキで家族で山グッズを一式揃えたのがきっかけです。子どもの登山靴はすぐに小さくなってしまいましたが、それからは家族旅行に必ずハイキングやトレッキングを組み入れ、那須の茶臼岳や尾瀬

ヶ原、白神山地のブナ林など初心者でも大丈夫な所を探して歩いていました。

ママ友だった香高さんに誘われて会友になってもう7~8年程になるでしょうか。山岳会でバスで筑波山に行ったときはまだ会友になってなかったと思います。あの時、筑波山は初心者には少しきつくて経験者にはちょっと物足りない山だと誰かから教えてもらいましたが、私にはだいぶきつくてしっかり筋肉痛になりました。山登りの筋肉は山で鍛えろと三木さんに言われましたが、少しは山歩きが上達したでしょうか。以来ウォーキングや難易度 B 程度の山行を中心に参加しています。なかでも一泊で仙丈ヶ岳に登ったのは良い経験でした。

ここ数年、4月下旬から10月まで2~4週間ごとに田舎に行ったり来たりしているの、その間はなかなか山行に参加できません。落ち着いたら半世紀ぶりに楡形山に登りたいなと思っています。とにかく山歩きを楽しみたい！が今後の目標です。



## あ の 日 の 山



### 黒部別山南尾根～劔岳～馬場島へ、冬季の縦走

#### 一忘れ得ぬ岳人・廣島三朗さん、冬の劔岳山頂一

前田 栄三

人生齢を重ねて参りますと、珠玉の様な方々との出会いが想い出されます。私にとりましては、廣島三朗（みつお）さん、（愛称さぶちゃん）が正にその御一人でした。私が廣島さんの悲報に接したのは1997年8月20日のこと、赴任していたアラビア湾上の石油基地でした。1994年の年次晚餐会で再会したばかりというのに。



【廣島さんの主たる山歴】1977年日本K2登山隊登攀リーダーで登頂、1992年カラコルム・スパンティーク（7,027m峰）登山隊隊長・全員登頂。カラコルム地域、56回の踏査。1997年カラコルム・スキルブルム（7,360m峰）登頂後、遭難。享年54歳。登頂後BCで就寝中であろうその夜、氷河の崩壊による高圧の爆風がテントを襲い、遭難。



「岳人 280号 特集・雪山 遭難特集/ 遭難の追憶」(昭和44年3月発行) p18

1969年1月馬場島に到着

私が廣島さんにお会いしたのは、1964年1月2日のこと。場所は烈風雪厳しい劔岳山頂。小窓方面から来た秀峰登高会パーティのリーダーでした。私たちが黒部別山南尾根から来たことを知り、「やりましたかあ！」と声を張り上げた精悍且つ快活な

様子が昨日のことに思い出されます。

この年の劔岳・立山一帯の悪天候・暴風雪は登山史に残るほどに凄まじく、20名が死亡したと記録されています。本峰だけでも数名が亡くなっています。

私たちは当初、扇沢～鳴沢岳～黒部別山南尾根～劔岳を目指す計画でしたが、部内の検討会で前半部分の承認が得られず、黒部ダムからの入山となりました。然し意気頗る軒昂でした。『京大山岳部報告15』には、山行ルートに際して、パイオニアワークの終焉を自覚しつつも初登攀・初トレースを目指すとする息吹、京大山岳部レベルでの黒部別山・大タテガビ

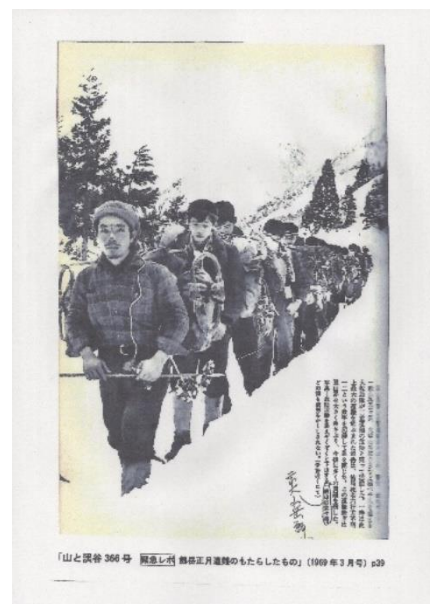
ンへの執着に、南尾根を厳冬期に登ることで一定の総括、とする様子も語られています。若き日の直向きな輝きですね。

今春、山岳ガイド・佐藤勇介さんのブログに黒部横断（2022年12月～2023年1月）の記録が掲載されていました。ほぼ半世紀ぶりに目にする厳冬期黒部別山南尾根登攀の記録です！

私たちの主宰する地域研究の集い「雲南懇話会」（2023年6月11日開催）で拝聴し

たのは言うまでもありません。南尾根核心部の一つ、大キレットの下降（空中アップザイレン）に際してザイルの長さがギリギリで、苦闘に苦闘を重ねたと、話の中にありました。

登山の様相、形態等など、様々に進化しているようですが、山の厳しさは昔も今も変わらないようですね。



馬場島から下る 先頭が前田さん

山の日ビールパーティー 2023

三田 博

8月11日(金)、今年の山の日にはビールパーティーで盛り上がりました!

会場の新検見川駅前の中華料理店「桂林」に25名が集まりました。コロナ以降、なかなか機会がありませんでしたが、今年は豪華な中華料理をいただきながら談笑することができました。松田支部長の挨拶と高橋正彦さんの乾杯でパーティーはスタート。最近入会した会員の自己紹介から始まり、出席者が順番に近況報告を披露しあい、はじめましての人もお久しぶりの人も和やかに歓談いたしました。

山の日には「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」です。山に登るばかりではなく、こうして山が大好きな仲間が集まって、山の話で盛り上がるのも「山の日」の一つです。山の日のお総の山は暑くて登るのに適しません。来年はどんな企画をしようか、皆様お知恵をお貸しください。よろしくお願ひいたします。



初めての山小屋と高峰高原の山

成田 知彦

山行日/天候: 8月19日(晴→雷雨)、20日(晴)、21日(晴)

参加者: 「19~21」L松田宏也、坂上光恵、成田知彦、古谷清美(坂上友人) (4名)

「19~20」東蒼生(5名)

タイム: 19日雷雨で登山中止。

20日 WV 小屋 6:50→池ノ平駐車場 7:21→東麓ノ登山口 7:30→東麓ノ登頂上 8:30→池ノ平駐車場へ下山 9:45→池ノ平湿原入口 10:10→鏡池 10:20→三方コマクサ園 10:50→見晴丘 11:20→雲上の丘 11:40→池ノ平駐車場 12:20→WV 小屋 13:00

21日 WV 小屋 6:00→高峰高原ホテル 6:10→黒斑山登山口 6:30→槍ヶ鞘 8:30→トミーの頭 9:00→黒斑山 9:30→高峰高原ホテル 11:40

19日千葉を出発時は晴れであったが高峰高原に近づくにつれ西の空遠くに厚い雲が見え始めた。今日は池ノ平駐車場から湿原の散策予定であるが準備運動を終えるとポツポツと雨が降り始めた。しばらく車中で様子を見るもますます激しくなるばかり、雷も近くに鳴り始めたので止む無く中止。

20日は湯の丸高原林道のゲートが開く7:00を目指し行動開始。東麓ノ登を目指す。道中マルバタケブキやワレモ



コウ、マツムシソウなど高山植物を左右に眺めつつ朝の光とマイナスイオンを浴びながら一気に登頂。前日の天気が嘘のように快晴であった。下山途中珍しい珍

客が現れ、ご挨拶(オコジョ)。今日は天気もよく時間もあるので前日の大雨で行くことが出来なかった池ノ平湿原へ。鏡池では通常池の水は少ないとの事だが、前日大雨の影響で水も溜まりくっきりと水面に映る山を見る事が出来て感動。その後コマクサ園に移動したが残念ながらコマクサはほとんど見る事は出来なかった。

3日目は、今回のメインでもある黒斑山登山。前日夕方以降も雷雨であったが水溜まりもほとんど無く気持ちよく登る事が出来た。途中槍ヶ鞘やトミーの頭では浅間山や八ヶ岳、北アルプスを展望しながら黒斑山の頂上に到



着。ガレ場での歩きにくさ、土が流れ高くなった階段、平坦だと思った帰り道の中コースは、土が流れ身長が埋まる位の堀が出来ており苦しみながらなんとか下山。WV 小屋に戻り後片づけ、戸締りを終え帰宅。今回は、登山BaseとなったWV 小屋のお陰で充実した山登りと薪割り、薪ストーブ体験を行う事が出来ました。また一緒に参加してくれたメンバーも楽しく食事も充実しました。心から参加者の皆様に感謝申し上げます。



待望の、アオウミガメの孵化

小川和敏

※個人山行

山行日/天候：8月26日～28日 曇り一時雨 1名



長年願っていたアオウミガメの孵化をようやく見ることが出来ました。屋久島では99.9%がアカウミガメと言われていたので、ここ数年見ることが叶いませんでした。永田のいなかはまに泊まり、2泊目の翌朝に民宿のご主人のサポートも有って・・・本当に数年の夢が現実になりました。従来見ていたアカウミガメの孵化と大きく異なり、本当にビックリといった光景でした。大きさが二回りほど大きく、とにかく元気いっぱい。海に向かうスピードも多分アカの倍以上。

上。カメラで追うのが大変な状況でした。8頭という縁起の良い孵化でした。

これで元気をもらい、マイナーな吉田岳に行くことに。ゲートから1時間強の林道歩き。登山口から踏み跡の薄い登山道へ突入する。

慎重に進むと、すぐに新しく設けられた林道にぶつかり、クリアしてしばらく進むとまたしても工事中のような林道に。何となく、気持ちさがれてしまう。まあ、ある意味では安全なゾーンだということかも。ピンクテープが無かったら相当につらいルートに気持ち落ち込む。更に、そこに雨の洗礼が・・・頂上では写真を撮ってすぐに下山。下りは急いだこともあってすぐに登山口へ。駐車した場所から温泉へ一目散。で、何か違和感が・・・アレッ、屋久島で初めての献血だししかも2ヶ所も。全く無警戒でした。



西部林道の川原1号橋が先の大雨で流出。復旧には1年以上とか。また、湯泊歩道や破沙岳の登山道を探索したところ、湯泊歩道は藪だらけで撤退し、破沙岳の登山道は3m四方の大陥没で撤退し・・・もうあらゆる登山道が荒れてきてしまっている。宮之浦岳とか縄文杉とかメジャーなところしか登れなくなりそうな気がして悲しい。

● ウォーキングクラブ計画実施を振りかえって - 2023 前半 ●

- ・ここはどんな所？何があるのかな？街のにぎわいの中を、またある時は里の田園風景の中を好奇心いっぱい宝探しの気分で楽しく歩いて、風の音や鳥の声、草木の香りを感じつつ、そこに暮らす古今の人々の営みを想い、歴史や自然の様子を知ることにも出来ます。驚きと発見と感動の連続。仲間と一緒に歩いて喜び倍増！ウォーキング大好きです。(A女)
- ・歩みに汗、見知らぬ景色に興味、反省会で乾杯と歩いて心身リフレッシュし明日の活力の源泉と思うこの頃です。(B男)
- ・一人では苦になる長い道も、仲間と一緒にだと発見があり楽しい！ウォークの魅力として、近郊であっても人生初めて「見る、知る」ことが多いことに喜びを感じています。(C女)
- ・皆様の共助が沢山あって、大船に乗った気分です安心して愉快地楽しく現地を歩き、仲間の交流を深めています。(D男)
- ・最近 心身の衰えを感じる老体には歩行は頼みの綱です。健康で続けていけるよう願っています。(E男)



これはウォーキング参加者のつぶやきである。

前世話人(杉本氏)計画のウォーキングに参加して山岳会皆様とコミュニケーションを豊かにして「歩くことは、楽しく健康維持に最適」なことについて、小生は学んだ。

ある日に世話人が山岳会を脱退したことから、ウォーキングクラブは解散か？脳裏に走った。そこで大変なことが生じた！松田支部長から「ウォーキングクラブ世話人をやれ！」と命令があった。過去また今も命令指示を受けて生活している習慣から、その命令指示？を拒否できなかった。

昨年3月南酒々井町酒造蔵経由で成田市宗吾経由ウォーキング初回実施に続いて、以降猛暑月は避けて県内及び都内20コース程を歩行巡回してきた。

実施中断した今、過去を顧みて実施基本計画は変更せず、従来通りで良いのかな？参加また参加思考している皆様はどのような実施計画を望んでいるのかな？皆様の更なる独り言を聞きたいと思う昨今であります。

猛暑月を避けていたウォーキングは、9月には「大原裸祭りを観て潮騒を歩く」皆様と再会を楽しみにしています。皆様は御参加して下さるのかな。お待ち申し上げます。(宇津木 仁典)

最難関の北鎌尾根を登る

三田 博

※個人山行

山行日/天候 8月29日～31日(晴れ)  
参加者: L 平野直子、上條誠一郎、三田博  
(3名)

タイム:

29日; 上高地5:15→横尾7:50→  
大曲10:50→水俣乗越12:30→  
北鎌沢出合14:30→北鎌のコル17:50(泊)  
30日; 北鎌のコル5:47→独標8:00→  
槍ヶ岳13:15→大喰岳14:35→  
南岳小屋テント場16:35(泊)  
31日; 南岳小屋6:50→天狗池8:30→  
ババ平10:00→横尾11:35→上高地  
14:10

国内最難関ルートの一つと言われている槍ヶ岳北鎌尾根ルートにチャレンジしてきました。北鎌尾根はご存知のように、加藤文太郎、松濤明が冬季に遭難死したことで知られるクラシックルート。年齢からくる体力不足とバランス感覚不足で、たぶんもう行けないと思っていたコースだったが、なんとか踏破できたのは何よりもベテランクライマー平野さんのリーダーシップと、私より50も年下の上條君が歩荷してくれたおかげです。

28日前夜発、沢渡の駐車場にて車中泊。寝不足のままタクシーで上高地へ向かう。最初はゆっくり、明神、徳澤、横尾を歩く。大曲で右に折れ水俣乗越を目指す。この400m弱の急登ですでに私はバテてしまう。これまで、人に荷物を持ってもらうようになったら登山なんかやめようと思っていたが、ここはポリシーを変更して有り難くお二人に甘えることに。水俣乗越からはザレた300mの激下りをこなして天上沢に降りる。長い巨岩の河原歩きで北鎌沢の出合いに到着。当初の計画ではここでビバークだったが、明日の日程を考えて北鎌のコルまで右俣を登ることにする(標高差650m)。直前の情報では右俣では水が無いので、平野さん上條君の二人で左俣に水を補給しに行ってくれる。脱水



気味だが荷の軽い私はダラダラと右俣を登る。「笛の合図で待つ」という打ち合わせだったが、あの二人だからいずれ追いついてくるだろうと休み休み登ってしまう。さすがに15リットルの水の重さは半端なかったようで、途中ビバークも考えたそう。これは私の重大なミス、大変申し訳ありませんでした。そんなこんなで、一人テントなら3張り分ぐらいの広さの北鎌のコルに到着した時には暗くなりかけていた。

2日目は午後から天気が崩れる可能性があるものの、前日に北鎌のコルまで進んだので出発はやや遅め。独標(2899m)近くまでは意外に道ははっきりして、ハイマツ混じりの岩場をストックも使い歩すが、危険な場所もたくさんあった。独標自体が一つの山のように、ものすごい威圧感がある。直登はせず千丈沢側を巻いて登っていくが、巻き道もザレザレで不安定。独標以降は完全な岩稜歩き。北鎌のコルから槍ヶ岳までP8からP15までピークナンバーがあるのだが、アップダウンが激しくてなんだかわからなくなってきた。「迷ったら千丈沢側」と言い

ながら進むが、本当にルートファインディングが難しい。平野Lの「バリエーションルートは無事に通過できればそれが正解」という言葉が身に沁みました!

目の前の岩壁を登ったり下ったりしながらも、遠かった槍の穂先が少しずつ近づいてきた。北鎌平に着くころには連続した岩登りに心が高揚して「クライマーズハイ」といった状態。チムニーを抜けて、ようやく槍の穂先の祠の裏から山頂に着くとギャラリーの祝福と称賛で照れくさいような誇らしいような…。

余韻に浸りながら肩の小屋まで下りてきたが、まだ時間が早い。「のんびり南岳まで行ってテントを張って、明日は天狗池経由で下山しよう」ということに。しかしこれが3000m峰3つ越えねばならず、もう足が上がらん状態に。それでも3000mの稜線上の夕焼けと翌朝の朝焼けを体験し、満ち足りた気分の上高地に下山した。



支部山行の予定

- 山行の心得 - リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。

「連れて行ってもらう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入って来て下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すこととなります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにして下さい。



● 山行の申込み

申込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。  
また山岳保険には必ず加入してきてください。

- ①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名（続柄）、緊急連絡先電話番号  
※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行は定員を設けています。また、技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることもあります。

コロナ対策：密を避け、山小屋や休憩所等ではマスク着用や消毒など決められたルールに従うようにしましょう。

| リーダーの連絡先 |         |
|----------|---------|
| 宇津木仁典    | 印刷紙面を参照 |
| 松田宏也     |         |
| 三木雄三     |         |
| 三田博      |         |
| 三田芳江     |         |
| 藤木玄三六    |         |
| 小川和敏     |         |
| 三品京子     |         |
| 今井貴朗     |         |
| 宮崎美智代    |         |

《難度》

W ウォーキング

A 整備され歩行2～3時間

B 歩行5時間前後

C 歩行7時間前後、一部岩あり体力要

D 強い体力、岩技術要

E 高い適応能力要、危険度大

(難度はJAC日本300名山を参考。岩・沢及び積雪期は  
難度アップとする。)



個人山行も計画書提出を 送信先 ; cib@jac.or.jp

山 行 の 予 定 (10月～3月)

| 日 程           | 山 名           | 難 度 | 備 考                    | リ-ダ-  | 締 切       |
|---------------|---------------|-----|------------------------|-------|-----------|
| 10月13日(金)～14日 | 谷川岳・一ノ倉沢      | B   | 自然学：絶壁と湯檜曾対岸の地形を巡検、前泊  | 三木    | 9月16日(土)  |
| 10月14日(土)     | 金峰山           | C   | 信仰の山、五丈岩を目指して          | 今井    | 10月1日(日)  |
| 10月14日(土)     | 六ツ石山          | B   | 奥多摩三大急登                | 小川    | 10月5日(木)  |
| 10月20日(金)～23日 | 信越トレイル        | B   | 紅葉シーズン 1泊、2泊でもOK (民宿泊) | 松田    | 10月1日(日)  |
| 10月22日(日)     | 景信山 (ガイドンス山行) | B   | 入会希望者の参加歓迎             | 三田    | 10月15日(日) |
| 10月27日(金)～28日 | 二ツ箭山と背戸峨廊     | C   | 福島・夏井川溪谷キャンプ場泊         | 三田    | 10月15日(日) |
| 10月28日(土)     | 都内下町ウォーキング    | W   | スカイツリー周辺と浅草を歩く         | 宇津木   | 10月8日(日)  |
| 11月3日(金)～4日   | 4支部懇談会 (栃木支部) |     | 詳細は別途                  |       |           |
| 11月10日(金)～11日 | 高原山           | B   | 日光に泊まり、矢板市の最高点へ        | 小川    | 10月10日(火) |
| 11月11日(土)     | 矢倉岳           | B   | どでかい富士を見る。足柄の山         | 松田    | 10月31日(火) |
| 11月11日(土)     | 晴香園山行         |     | 11/11 または 11/24        | 三木・香高 |           |

日本山岳会千葉支部

| 日 程           | 山 名               | 難 度 | 備 考                      | リーダー | 締切        |
|---------------|-------------------|-----|--------------------------|------|-----------|
| 11月12日(日)     | 檜洞丸               | C   | 西丹沢の名山、晩秋の静かな山           | 今井   | 11月4日(土)  |
| 11月12日(日)     | 勝浦地区ウォーキング        | W   | 荒磯のみちを道を歩く               | 宇津木  | 11月5日(日)  |
| 11月18日(土)     | 生瀬富士              | C   | 紅葉の茨城ジャンダルム(車使用)         | 三田芳  | 10月28日(土) |
| 11月23日(木)     | 房総の山復興 PJ ハイ<br>ク |     | 3団体合同ハイク(詳細は別途)          | 松田   |           |
| 11月25日(土)     | 鎌倉アルプス            | B   | 紅葉の鎌倉                    | 松田   | 11月17日(金) |
| 12月2日(土)      | 日本山岳会年次晩餐会        |     | 詳細は別途                    |      |           |
| 12月3日(日)      | 晩餐会記念ハイキング        |     | 詳細は別途                    |      |           |
| 12月9日(土)~10日  | 登山道整備と忘年会         |     | 房総 Base 泊                | 松田   | 12月1日(金)  |
| 12月15日(金)~16日 | 浜石岳               | A   | 沼津前泊、由比駅から富士を眺めつつ周回      | 小川   | 11月20日(月) |
| 12月16日(土)     | 成田地区ウォーキング        | W   | 印旛沼と甚平渡し周辺を歩く            | 宇津木  | 12月9日(土)  |
| 12月17日(日)     | 養老溪谷・老川探検         | C   | 要・ヘルメット沢靴                | 三田   | 12月10日(日) |
| 12月23日(土)     | 高宕川(沢登り)          | C   | 沢歩きで高宕観音へ                | 三田   | 12月16日(土) |
| 12月27日(水)~29日 | 北八ヶ岳              | D   | 恒例のしらびそ小屋泊予定             | 松田   | 12月1日(金)  |
| 1月1日(月)       | 三郡山と安房高山          | B   | 清和県民の森駐車場から周回            | 三田   | 12月20日(水) |
| 1月3日(水)       | 丹沢・鍋割山            | B   | 新年山行で富士をみる               | 松田   | 12月25日(月) |
| 1月6日(土)~7日    | 登山道整備と新年会         | A   | 整備後は房総 Base 泊で新年会        | 松田   | 12月31日(日) |
| 1月7日(日)       | 津辺野山(ガイドンス)       | B   | 道の駅「富楽里とみやま」から周回         | 三田   | 12月30日(土) |
| 1月14日(日)      | 麻綿原高原~石尊山         | B   | 千葉の原生林を歩く                | 今井   | 1月7日(日)   |
| 1月18日(木)      | ゲレンデスキー(日帰り)      |     | スキーバス利用(場所未定)            | 三田   | 1月9日(火)   |
| 1月28日(日)      | 川崎大師参拝            | W   | 川崎大師駅周辺を歩く               | 宇津木  | 1月21日(日)  |
| 1月28日(日)      | 県民ハイク(CMSCA)      |     | 詳細は別途                    | 松田   |           |
| 2月3日(土)       | 大楠山               | A   | 三浦半島最高峰                  | 松田   | 1月27日(土)  |
| 2月10日(土)      | 大岳山               | B   | 鋸尾根(or海沢探勝路)から登り、白倉へ下る   | 小川   | 2月1日(木)   |
| 2月17日(土)~18日  | TOZAN Fes(CMSCA)  |     | 詳細は別途                    | 松田   |           |
| 2月18日(日)      | 船橋アンデルセン周辺        | W   | アンデルセン内と周辺を歩く            | 宇津木  | 2月11日(日)  |
| 2月23日(金)~24日  | 裏磐梯スノーシュー         | C   | 雄国山周辺を歩きます。民宿泊           | 三田   | 12月31日(日) |
| 3月2日(土)~3日    | 頼朝桜を見る会           | A   | 佐久間ダム周辺をハイキング(房総 Base 泊) | 松田   | 2月24日(土)  |

| 日 程      | 山 名  | 難 度 | 備 考            | リーダー | 締切       |
|----------|------|-----|----------------|------|----------|
| 3月10日(日) | 柏木山  | A   | 飯能の里山からの展望を楽しむ | 今井   | 3月6日(水)  |
| 3月23日(土) | 古賀志山 | B   | 日本百低山・栃木百名山の山  | 三品   | 3月2日(土)  |
| 3月30日(土) | 筑波山  | A   | カタクリの花を見ながら頂へ  | 宮崎   | 3月23日(土) |

※ W;ウォーキングクラブの予定が変更になった場合はメンバーに事前連絡します。  
メンバー登録はリーダー宇津木さんにメールしてください。

## お知らせ

《事務局から》

### ●支部年会費の納入お願い

滞納している会員・会友の方が散見されます。支部の運営にとって大切な原資です。是非、納入下さい。

以下がゆうちょ銀行の送金口座です。

記号番号で送金の場合：00270-8-105649

店名で送金の場合：ゆうちょ銀行 029 店 105649

加入者名 日本山岳会千葉支部



### ●役員会報告

○6月報告 6月21日(水)リモート(松田、三田、小川、山口、三品、今井)

◇山行・行事報告 6/3~4 太郎山、6/10 市原ウォーキング、6/10~11 Base 草刈り、6/17 御岳ロックガーデン、6/17~18 登山教室「読図」、JAC 総会

◇山行・行事予定 浅草岳、晴香園鶴原ハイク、奥多摩ガイドダンス山行、富士山昔道、登山教室「天気」

◇報告・検討事項 登山教室、ビールパーティー、支部だより 62号、入退会者報告

○7月報告 7月19日(水)リモート(松田、三田、山口、小川、三品、甘楽、今井、中田)

◇山行・行事報告 6/23~24 浅草岳、6/24 晴香園鶴原ハイク、7/1~2 青森支部30周年集会、7/8 Base 草刈り、7/9 奥多摩ガイドダンス山行

◇山行・行事予定 富士山昔道、登山教室「天気」、桜沢・スッカカン沢、ビールパーティー、和名倉山、晴香園ロックガーデン

◇報告・検討事項 登山教室、JAC 総会報告、Base 来客、10月自然保護全国集会、入退会者報告

○8月報告(休み)

### ●会員・会友の動向

《入会》

KKさん(17140) 会友から

KSさん(17148) 会友から



編集後記；古希から数年、登りたい山に早く行かなくてはとの気持ちが強くなります。8月には大キレットへ。9月には光岳へ。まあ、大きな宿題は終えたかなという感じです。しかしながら、次から次へと登りたい山が現われて、正直戸惑っています。百名山などにはこだわっていないのですが・・・来年の課題山行もどんどん増えています。

75歳からは島旅などをゆっくりと楽しみたいと思う今日この頃です。

津田沼のヨシキスポーツさんにはSAC教室会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を

購入するときは是非ご利用して頂きたいと思います。会員になると割引があります。

(小川和敏)